



カモのカウントダウン

冬にあきる野の河川敷を訪ねると、さまざまなカモの仲間を観察することができます。一年中見ることできるカルガモやオシドリ（留鳥）以外に、冬鳥としてキンクロハジロやオナガガモ（渡り鳥）などが飛来します。私は、飛来するカモの種類や羽数が年々減少している印象を受けてきたため、昨年からカモ（ガンカモ類）のカウントを始めました。普通種であるコガモやマガモなどの個体数は減少し、かつて確認していたカワアイサやスズガモ、ホオジロガモ、オカヨシガモなどが見られなくなっています。

昨年は、矢に刺されるなどの被害を受けているカモのニュースがありましたが、これまでもカモはさまざまな被害を受けてきています。また、環境省の調査結果により、全国的に羽数の減少がみられるとされています。鳥インフルエンザの影響が考えられますが、海外の繁殖地でも何か問題が起きているのでしょうか。

日本で狩猟対象となっているカモ類は、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、クロガモですが、これ



あきる野で見られるミコアイサ（左：雄、右：雌）らが多く生息する場所は狩猟禁止区域である鳥獣保護地区や公園などになります。さらに、1日当たりの狩猟可能羽数も制限されているにもかかわらず、多くのカモ類の減少が続きます。一方、狩猟対象外のアオサギなどの鳥類、または天然記念物として指定されているカモシカなどは法律に守られ増加し、さまざまな被害が拡大している状況です。

このことから考えると、法律やルールなどはもう少し早めに、現状や自然の変化に沿って見直しすべきではないかと思います。

最も寒い時期である1月からはカモのピークになりますが、このままだとカモたちはいつかあきる野から姿を消す日が来るかもしれません。

（パブロ）